

情報通信審議会 情報通信技術分科会
技術戦略委員会 先端技術WG(第6回)
議事概要

1. 日時

平成28年5月27日(金)17:00~18:10

2. 場所

総務省 10階 総務省第1会議室

3. 議題

- (1) 前回議事概要(案)の確認
- (2) 構成員からのプレゼンテーション
- (3) 先端技術WG報告書(案)
- (4) その他

4. 出席者

- (1) 構成員(主任等を除き五十音順、敬称略)

森川主任(東京大学)、下條主任代理(大阪大学)、伊勢村構成員【代理:池上氏】(ヤンマー)、宇佐見構成員(KDDI)、加藤構成員(富士通研究所)、川西構成員(沖電気工業)、葛巻構成員(トヨタ自動車)、桑津構成員(野村総合研究所)、桑原構成員【代理:干場氏】(ALSOK)、阪本構成員【代理:岡村氏】(シャープ)、佐藤構成員(電波産業会)、柴田構成員(三菱重工業)、下西構成員(日本電気)、高野構成員(小松製作所)、田中構成員(日本電信電話)、丹構成員(北陸先端科学技術大学院大学)、中村構成員(三菱総合研究所)、南條構成員(日立製作所)、萩田構成員(国際電気通信基礎技術研究所)、本間構成員【代理:笹井氏】(パナソニック)、前田構成員(情報通信技術委員会)、森田構成員(三菱電機)、矢野構成員(情報通信研究機構)

- (2) 総務省

輿水総務大臣政務官

(情報通信国際戦略局) 富永大臣官房総括審議官、萩原研究推進室長、宮澤研究推進室課長補佐

(総合通信基盤局) 中村新世代移動通信システム推進室長

- (3) 事務局

情報通信国際戦略局技術政策課 野崎課長、森下国際共同研究企画官

情報通信国際戦略局通信規格課 藤田課長、山口企画官、西村標準化推進官

5. 配付資料

- 資料WG6-1 プレゼンテーション資料(電波産業会)
- 資料WG6-2 プレゼンテーション資料(KDDI)
- 資料WG6-3 先端技術WG報告書(案)(事務局)
- 資料WG6-4 先端技術WG報告概要
- 参考資料6-1 先端技術WG(第5回)議事概要(案)
- 参考資料6-2 先端技術WG 設置要綱
- 参考資料6-3 先端技術WG 構成員名簿
- 参考資料6-4 技術戦略委員会 検討スケジュール

6. 議事概要

3. の議題について検討を行った。議事概要は以下のとおり。

(1) 前回議事概要(案)の確認

森川主任より、参考資料6-1に基づき説明があり、前回議事概要(案)について了承された。追加で意見があれば、6月3日(金)までに事務局まで連絡することとなった。

(2) 構成員からのプレゼンテーション

佐藤構成員から資料WG6-1、宇佐見構成員から資料WG6-2に基づき、それぞれ説明がなされた。主な意見等の概要は次のとおり。

- PPM(プライバシーポリシーマネジメント)の話は非常に重要だが、センサーレベルでの実装は可能か。(下條主任代理)
- IoTやセンサーに関する検討はまだこれからという段階である。現在はスマートフォンサービスで重要性が確認できたところ。喚起をすることで今まで気づいていなかったことに気づく人が出てきており、どこまで情報を提供したら安心してサービスを受けられるかといった、IoTの手前側のサービスでPPMの重要性が確認された。(宇佐見構成員)
- PPMの運営の主体は何か。また、最近EUでは個人情報の取扱いが厳しくなったと聞かすが、ETSIの方ではPPMの取組に対してどのような感触を持っているか。(中村構成員)
- PPMはさまざまな提供の仕方が考えられるが、今回KDDIではコンソーシアムのような形でプラットフォームを共同で運営するという体制で実証を行った。また、EUではプライバシーの法規制が改正されて厳しくなり、また、IoTにおけるプライバシーが注目を浴びているという背景もあり、その方面でもインプットしていきたい。(宇佐見構成員)

(3) 先端技術 WG 報告書(案)

事務局から資料WG6-3に基づき、説明がなされた。主な意見等の概要は次のとおり。

- 「自律型モビリティ社会」という名称は世界中で通用する用語なのか。自動車の分野では、自動車が単体で持っているセンサーのみで行う自動走行を自律型、システムが相互につながった形で自動走行を行うものを協調型という。「自律型モビリティシステム」の「自律型」の使い方が異なるため混乱してしまう。(葛巻構成員)
- ここでいう「自律型」というのは、すべての人が寿命を迎えるまで自律的に行動・生活ができ、生産ラインでも人が少なくなる中で、製造ロボットが人と共同して自律的に生産性を上げていく、という意味での「自律」であるため、自動車とは違う使い方をしている。本 WG では、人間や社会の自律性を助けるようなモビリティシステムが重要ではないかということで記載しているので、自動走行とは異なる。(事務局)
- 自律型モビリティシステムと聞くとスタンドアローンのような印象を受ける。「移動系IoT」という言葉に合うのか疑問。(葛巻構成員)
- 誤解のないように注意書きを入れたいと思う。(事務局)
- PPMの話は非常に重要な指摘だった。先端IoT社会の共通プラットフォームは、センサー情報が横串で流通する世界だと思われるが、そうしたデータの相互流通のルールを管理するためにもPPMが必要になる。このような情報のトラッキングや、自動走行の品質確保のためには、例えば競合する各自動車会社の情報の擦り合わせやマッチングが必要になる。先端技術WG報告書(案)の40ページにある「③様々なIoTデータの相互流通の促進、共通プラットフォーム実現に向けた研究開発・実証等」に、共通プラットフォームの実現に向けた機能として、センサーデータなど情報の擦り合わせについての記述があった方が良いのではないか。(下條主任代理)

(4) その他

森川主任より、構成員に対して先端技術WG報告書(案)に関する追加の意見募集等について連絡があった。

以上